



平成13年春、結による長瀬家屋根の葺き替え

白川郷の合掌造り



第4号

平成14年3月1日

発行 (財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町
2495番地の3

昨今の「荻町合掌造り集落」

を離れて見ていると、四季を問わず多数の観光客が訪れていますが、20年前ではこれ程の入込み客を予想できなかったでしょうか？たしかに観光客の増加を求めて冬に何をすればよいのか？その悩みを解決するための方策として「ライトアップ」を始めたのでした。それと共に国道156号の整備促進及び東海北陸自動車道の整備促

役割を増す保存財団

(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団

副理事長 南 良 則

進（荻町ICと五箇山IC）が早期に図られたことも大きな要因となりましたが、「世界文化遺産」の登録は予想以上の反響となりましたことは村民皆様方がご承知のとおりであります。

現在、財団法人世界遺産白

川郷合掌造り保存財団（以下「保存財団」）は小呂地区のせせらぎ公園駐車場の管理運営を白川村から委託を受けて、その駐車料金（大型車1、000円、普通車300円）に大型車1、000円、普通車200円を上乗せして協力金をいただき、世界遺産合掌造り集落の景観を保全するための資金、さら

に「保存基金」などに充てられて大いに自主的保存事業を行っています。平成9年3月

に保存財団が設立されて5年目、運営事業全体で年間約1億2千万に上る財団となりました。

荻町地区の新築改築を希望する人からの修景相談、荻町の自然環境を守る会の理論的後方支援、さらに世界文化遺産を保存継続するための科学的研究、村行政とは一歩離れた所を地道に補佐（助成）していくのも、大切な保存財団の活躍する道と考えれば、年を重ねる毎にその役割は重要度を増していくものと確信いたします。

伝統的建造物群保存地区は合わせて世界文化遺産の冠を頂いた「荻町合掌造り集落」、端に村づくりの経済振興を目指す地域となれば、文化遺産を傾けてしまう恐れもあります。長期的文化精神の上に立つて、保存財団の意義ある役割を求めて世界文化遺産の保存にこれからも貢献していきたいと考えます。

60代男性 (東京都)

問1

・自然・雪が印象的と言うと皮肉になるか?合掌造りの民家には雪が良く似合った。交通の便を気にしてジックリと見ることが出来ず残念。特に展望台へ上がりたかった。

問2

・都会人からの勝手を言えばあまり観光地化ばかりに走り、俗化して欲しくない。

70代男性 (兵庫)

問1

・合掌造りの構造を内部から見る事が出来、釘を一切使わず縄と、マンサクの木で作ったネソでしぼった柱組みが良く分かり、古人の知恵の深さに感動した。

問2

・今日(木曜日)のように一斉休業するのではなく、いつも来る観光客のため飲食、休憩できる店を日を分けて休業するようにして欲しい。土産物ももっと地元の手造りのものがあっても良いのではないか。

30代男性 (東京)

問1

・今回は冬の白川郷を見に来た。雪を載せた建物を期待していたが以外に屋根から落ちてしまい残念なものかやぶきのすこさを見た。(残念という表現がまことに勝手に住んでいる方々には申し訳ないが…)旅行者や趣味の写真家達のマナーが今一つで自分達も含め気をつけたい(写真に夢中で通り道を長い時間ふさいだり、傘を開いたままおいていたり。)

問2

・何度か通うと、土産物にあきてきた。さるぼぼ付ブックカバー、紙ナフキンまた日用品で白川郷風柄付、さるぼぼ柄付を増やして欲しい。もう少し各お店の個性を出してはどうか。

うどしたがる

の休日にアンケート調査用紙を配布して後日ため自由意見の欄にいろいろの中の一部をご紹介します。アンケートの皆さんの生の声をお聞きく

場所について、ご自由にお書きください。らご自由にお書きください。

40代男性 (福島)

問1

・地区の皆さんはどなたも親切に場所・道を教えていただきました。ただ、休日のお店や施設が多かったのが残念!それと屋根に雪もなくて…

問2

・食事場所の休日が多かったのと、施設の説明を(ガイド)して頂ける方がいたほうがいいな一と思えます。(ちなみに私達はガイドなしのツアーだったので…)あと、季節よっての営業館・お店の表示もあればよいのでは!?

50代男性 (愛知)

問1

・前回来たときは秋です。白川郷、スーパー林道の紅葉がとても素晴らしく印象に残っています。又今回は雪景色ということで又一段と素晴らしく感激しました。寒いときに寒い場所もいいものです。

問2

・ここでしかない物と思うと土産物としては、あまり無かったようです。探し方が悪かったし時間が無いせいもあるかと思う。次回は少し時間をかけてゆっくり見たいと思います。

30代女性 (東京都)

問1

・「飛騨の里」と違って実際に生活されている中にある建物を見れたことが印象的でした。明善寺では実際に何かの儀式があったのか黒いネクタイをされている方がいました。

問2

・今回は短時間でしたので、良い面しか見えませんでした。とても感動しました。またゆっくりと行きたいと思えます。その時まで観光地化せず、日常生活が残っていることを望んでいます。昔の方は機能的な建造物を考え出すものとびっくりしました。時期的に雪が多かったので合掌造りの屋根が役立っているのだと思いました。

60代女性 (愛知県)

問1

・朝早く道が凍っていたので、あまり歩けなかった。もう一度ゆっくりと歩きたいと思えます。

問2

・地元の土産物が良いと思えます。トイレもきれいでした。保存大変ですががんばってください。車は乗り入れ出来なくても良いと思えます。

50代女性 (東京都)

問2

・行事やイベントの時ではない時にも合掌と土産だけではなく旅の思い出に残る村づくりを考えて戴きたいと思いました。それは一度にツアーで大勢の人々に見てもらおうという考え方ではなくて客1人1人に村の温もりが感じられる様に接してもらいたいということです。食べ物屋でも土産物屋でもどこでも事務的で忙しく「いらっしゃいませ」「ありがとう」という心がどこにもこもっていませんでした。「心の故郷へ」という言葉につられて出かけましたが疲れました。都会とは違うものを求めて行っているのですからもっと優しく穏やかに扱ってもらいたいと思いました。

60代女性（愛知県）

問1

・自分も小さい頃は長野県で茅葺屋根の家に住んでおりましたので、とても懐かしく、嬉しかったです。ふるさとへ帰ったようで心がやすらぎました。また春になったらおじゃましたいと思っております。そのときは是非地元の人と話がしたいです。

問2

・寒い季節なので仕方がないと思いますが、できれば地元にお暮らしの方々とお話したかったです。

60代女性（兵庫）

問1

・雪、雪、雪の中ですばらしい白川郷に感激しました。今度は娘、孫といっしょに行きたいです。

問2

・案内板の不足、土産物の種類があまりなく対応が事務的で残念でした。

50代男性（茨城）

問1

・何度訪れてもどこか郷愁をおびて本当にすばらしい所です。観光案内所の方にも親切に対応していただき、1日中ゆっくり過ごすことが出来ました。いつまでも守って欲しいと思います。

問2

・お正月に屋根の葺き替えの様子（長瀬家）を見ました。いつでも見られるようなビデオ設置してある所があると他の方も見られるのではないかと思いました。何度来てもあきないところ、白川郷が大好きです。がんばってください！

50代女性（京都府）

問1

・合掌造りを传承する事の大変さや苦勞、生活の困難を乗り越える事はそれぞれの努力だとは思いますが頑張ってください。朝もやの山の景色がとてもきれいで印象的でした。

問2

・交通の便が良くなれば自然がそこなわれるので良し悪しとは思いますが公共のものだけで行くには少し不便かなと思いました。

20歳未満男性（岐阜県）

問1

・合掌造りが目の前で見れて古い時代にもどった気がした。

問2

・食事をするとところが分かりにくかった。例えば名物の食べ物やガイドマップなどがあるといいのでは。トイレは思ったより多くあり助かりました。

50代女性（埼玉県）

問1

・旧つり橋が渡れないのでとても残念でした。岩穴から見える民家園の風景がとても美しかったし、橋の下の川の緑も美しかった。20年前に初めて行って大感動して通いつめたのですが、近年は庄川がいつも工事でいじり回され美しさが台無しになっています。川岸もあまりにもキッチリと整備され、人工的過ぎて合掌造りの風景にマッチせず、非常に悲しい気分になりました。自然に溶け込んだ様な合掌造りの佇まいが人の心を引きつけるのだと思いますので、山河を壊しての構造物はもうこれ以上設けなくてほしいなと思います。

問2

・土産物店はこれ以上増やさないで欲しいです。今以上に俗化されないで欲しいと心から思います。ありきたりの観光の町に進まないで欲しい！本末転倒にならないでいただきたい。白川で作られたお菓子が少ない気がします。知恵と工夫で他にない味のおいしい物をもっと考えていただきたいです。白川独自の物をどんどん考えてほしいです。トイレはどこも清潔で気持ちよく嬉しかったです。民家園のぜんざいサービスはおいしくてとても嬉しいことですが、大勢はいると大変ですね。囲炉裏端に座るとホッとして心がやすらぎます。

20代男性（埼玉）

問1

・歴史的なだけでなく、この集落には生活も感じられた。それが良かった。ライトアップの直前からは、あまりのツアー客の多さに閉口したが、生活があるという意味でも、白川郷は泊まってこそ、その魅力が分かる気がする。

問2

・ネットなどによる宿泊施設のもうちょっと詳しい情報が欲しかった。やはり建築がこの主役である以上、その宿泊施設ももうちょっと事前に知りたかった。実際に泊まった場所は良かったので、結構オーライだが…。トイレや土産物は十分に思われた。ただ案内に関しては、「展望台」への道が、遠回りの方しか最初分からなかったのがちょっと気になった。

白川郷はど

冬季間

観光客のみなさんを行ないました。アンケート返信していただく方法を取っろなことを書いて頂きました。そケットの質問は下記のとおりです。ださい。

問1. 地区内で印象的だったことや

問2. 当地へのご要望がありました

最近の萩町観光

今年度の調査普及事業の一環として、昨今の観光の動向を知るために観光客の方々を対象にアンケート調査を行いました。ここではアンケート回答の統計についてご報告いたします。

アンケートの方法

観光客の多い8月のお盆の時期（8月12日、13日）にせせらぎ駐車場であるの館周辺で、散策を終えて帰途につき観光客の皆さんに聞き取り調査を行いました。有効回答数は233票。

どこから来たか？

観光客の発地は関東が一番多く35.6%、次いで東海24.5%、近畿21.9%と三大都市圏からの来訪が多く、県別では、愛知県が18.9%で一番、神奈川11.6%、東京9.0%、兵庫8.2%、大阪6.9%の順でした。やはり皆さん都会の生活と違ったものを求めて白川にいらしているんですね。（グラフ1）

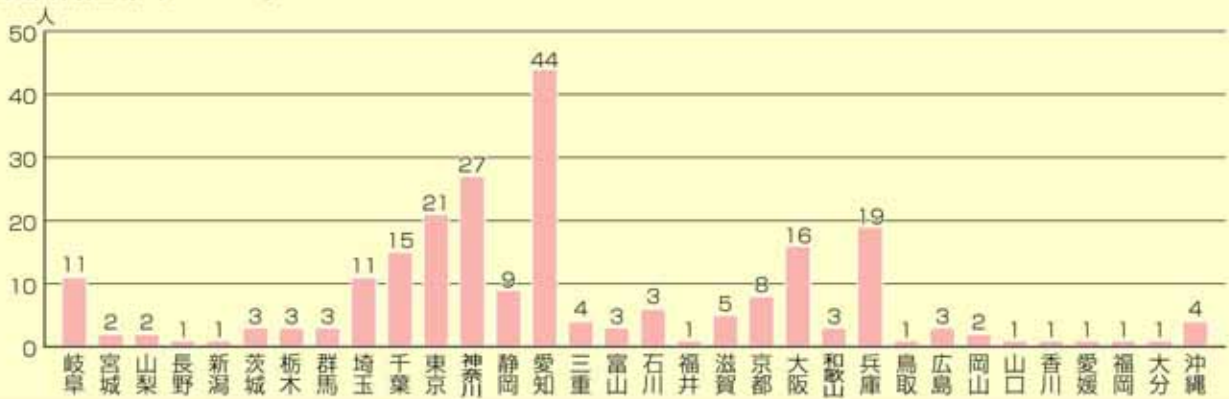
旅行の目的地は？

みなさん旅行の目的地はどこなのでしょう。一番はやはり白川郷42%、次に高山16%、金沢10%、五箇山6%、その他26%といった順でした。（グラフ2）高山、金沢とセットで訪れているという状況もここから読み取れます。しかし、白川郷を目的で半分近い人が訪れているということはそれだけの人たちが惹きつける魅力が白川村にあるということの表れであると言えます。

団体か？ 個人か？

この中で個人客は74%、団体客26%となっており、個人客は自家用車利用63%、レンタカー利用4%、路線バス5%と圧倒的に自家用車での来訪が多く、実際、せせらぎ公園駐車場のこの2日間の合計を見ても、普通車での入場者は6280人（普通車入場台

■回答者住所（グラフ1）



■今回の旅行の目的地割合（グラフ2）



数2、227台に係数2・82※を乗じた数値）、団体バスでの入場者は3681人（大型バス入場台数83台に係数44・35を乗じた数値）と個人客が団体客の1・7倍という状況でした。ちなみに夏休み期（8/1〜8/31）で見ると
・普通車入場者42、942人
（入場台数15、228台）
・大型バス入場者43、817人
（入場台数 988台）
と団体客と個人客の入込みはほぼ同じくらいです。
その他の季節をせせらぎ公園駐車場のデータから見えます。（グラフ3）
春の開花期（4/28〜5/28日）の31

※岐阜県観光レクリエーション動態調査で使用する係数

日間)は

- ・普通車入場者31、792人
(入場台数11、274台)
- ・大型バス入場者54、417人
(入場台数1、227台)

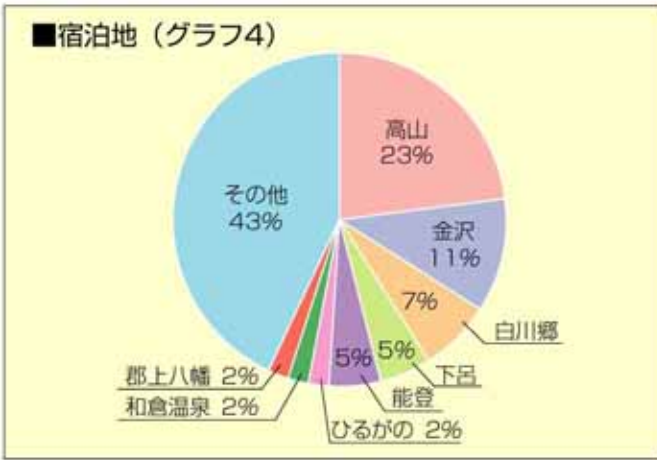
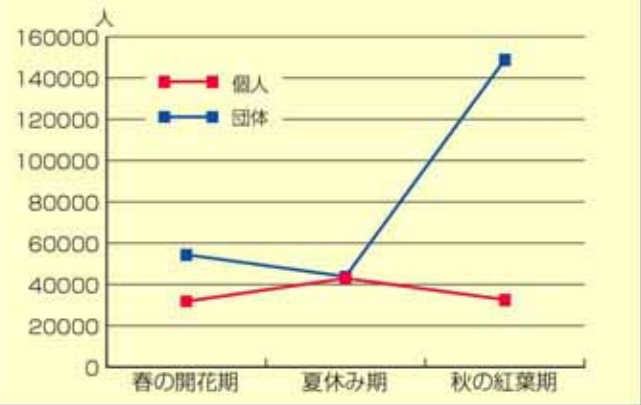
と団体客が個人客の1・7倍と大幅に上回っています。

秋の紅葉期(10/5~11/4の31日間)は

- ・普通車入場者32、652人
(入場台数11、579台)
- ・大型バス入場者148、882人
(入場台数3、357台)

と団体客が個人客の4・5倍となり10人中8人は団体客ということになります。

■繁忙期入込み比較(グラフ3)



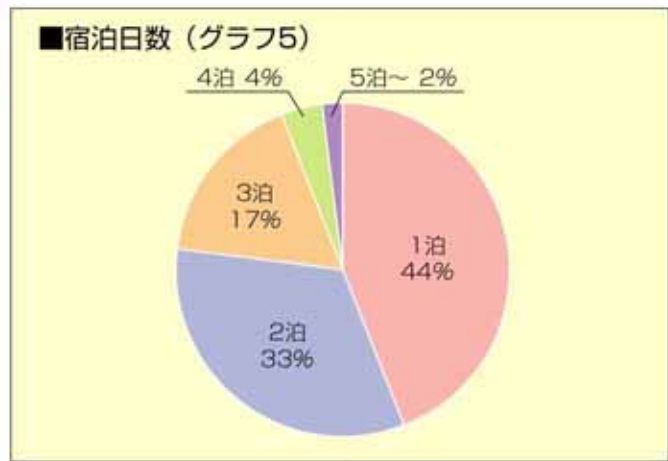
日帰りか? 宿泊か?

アンケートでは、宿泊客(村外宿泊も含む)が87%で日帰り客が13%と圧倒的に宿泊客が多いのですが白川村宿泊は全体の7%でした。後は全て村外宿泊で宿泊地は様々です。主な宿泊地

こうして三つの繁盛期を比較してみると、春と秋を中心に旅行会社が世界遺産白川郷がらみでツアーを組んでいるという状況が読み取れます。ちなみに秋は夏の3・4倍団体客が増加しています。また、個人客に関しては三期通してほぼ同程度の入込みを見えています。

荻町での滞在時間は?

観光客は実際、荻町にはどのくらい滞在しているのでしょうか。(グラフ6) アンケートでは1時間が20%、1・1~2時間46%、2・1~3時間16%、3・1~4時間6%、4・1~



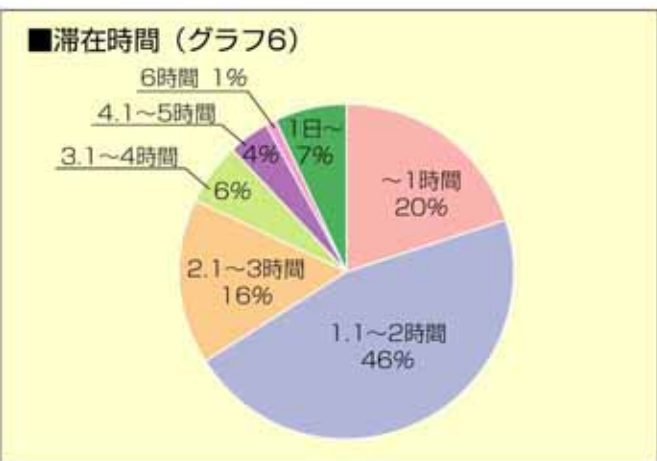
(グラフ4)は高山23%、金沢11%、下呂5%、能登5%と高山観光してから白川村へ足を伸ばすというルートが一番多いようです。

宿泊日数(グラフ5)は1泊が44%、2泊33%、3泊17%、4泊4%、5泊2%の順で1泊が多く、一人当たりの平均泊数は1・9泊でした。

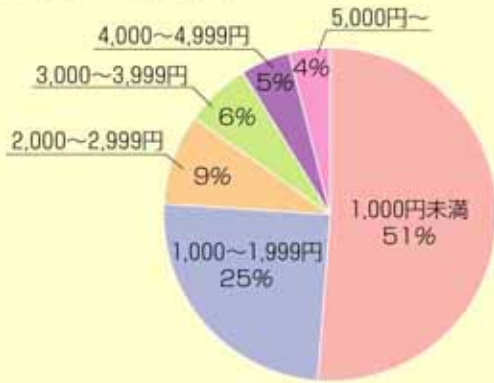
荻町での買い物額は?

たくさんのお金が観光客が訪れていますが気になるお金は皆さんのどのくらい使われているのでしょうか。(グラフ7、8) 土産物購入額は2、000円~2、999円が一番多く15%、次に、1、000円~1、999円と3、000円~3、999円が13%で回答者平均

5時間4%、6時間1%、1日7%と2時間程度が一番多く、長くて3時間という結果でした。この滞在時間の結果を見ても分かるように金沢、高山といった終着地へ向かう通過点的な状況であることが伺えます。



■当地での飲食代 (グラフ8)



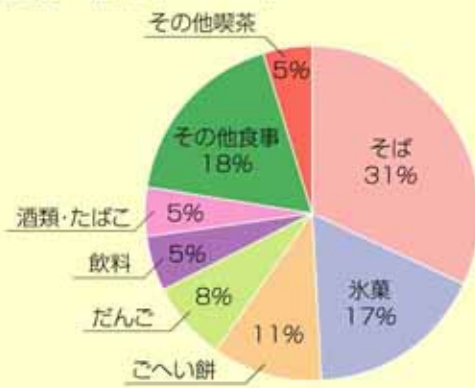
■当地での土産物購入金額 (グラフ7)



回答者233人中、和田家122人、明善寺117人、合掌造り民家園81人、

荻町で立ち寄った場所は？

■飲食物の種類 (グラフ9)



購入額2、797円でした。飲食代は1、000円未満が51%、1、000~1、900円が25%で回答者平均額が1、273円でした。飲食物の種類(グラフ9)はおそばが31%、氷菓が17%、ごへいもち11%、だんご8%、飲料5%、酒類・たばこ5%の順でやはりそばが一番人気のようです。土産物と飲食物の平均購入額を足すと1人当たり大体4、000円程度の買い物をしていると考えられます。

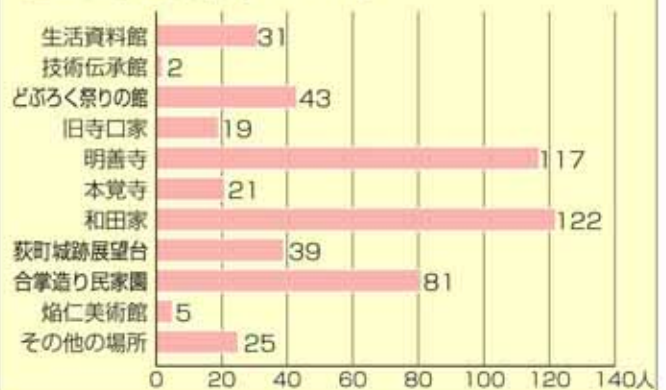
荻町を観光してみてもの集落全体の印象を聞いてみました。(グラフ11) 非常に良かった27%、良かった59%、ふつう10%、あまり良くなかった2%、良かった2%。良かった意見としては「空気がきれいで落ち着く」「水がきれい」「展望台での雨上がりの風景が良い」「花がきれいで魚が見れた。」「村の人がみんな白川村を守っている感じがした。」「タイムスリップしたみたい、冬に民宿に泊まってみたい。」「毎年来るけどやはり良い」「なつかしい」等、自然環境に対して多くの人が感動し、また保存活動に対する感想も述べられました。逆に否定的な意見としては「人がうじゃうじゃいる」「イメージと違った」「昔と変わった観光化されている」「都会化されている」等以前白川に訪れたことのある人からの意見でその頃と比較されての意見が大半でした。

荻町全体の印象は？

■荻町の全体の印象 (グラフ11)



■立ち寄り場所 (グラフ10)



荻町の田んぼが甦る
(休耕田活性化事業)

今年度、不耕作地となっていた6畝分の田んぼが「荻町発展会」「荻町自然環境を守る会」「伝建審農地部会」「荻町住民」有志の手により見事に甦りました。場所は公民館北側で展望台から眺めるとちよと集落の真中に見える場所です。田んぼは6月の下旬に代掻き、田植えが行なわれ、植えられた稲は夏になると青々と育ち集落を彩りました。稲は無農薬で育てられたため、秋になるとたくさんのお米を見ることができました。

年々、不耕作地が増える中、どうにかそれを食止められるきっかけになればという思いで実施され、それが見事に実った明るいニュースです。この活動に対し当財団では試験的に休耕田を活性化させるという意味で必要経費分の支援を行なっています。増えつつける不耕作地の問題は、一筋縄では解決しない深刻な問題ですが、このような明るい話題がどんどん出てくると嬉しいですね。



復活させる6畝の田んぼ



展望台より



作業風景



代かきの時期



緑の田んぼが甦る



田んぼを眺めての散策道

「結(ゆい)カード」会員募集中!

当財団では、基本財産から生じる運用益を活用して合掌造り集落の保存及び景観保存事業を行っていますが、最低でも年間18,000千円の事業費が必要です。しかし、近日の利息の低下により、運用益だけでは必要事業費には、はるかに及ばないのが実情です。そのため、緊急度の高いものから優先し、岐阜県の助成を得ながら、緊縮した村の会計から捻出して対処しているのが現状です。

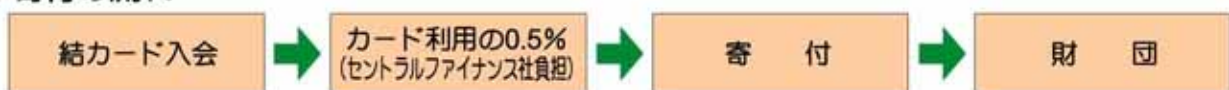


「結カード」

財団では基本財産の更なる充実を図るため、合掌集落保存基金への寄附金を募る一方、株式会社セントラルファイナンスとの提携による「結(ゆい)カード」を発行する事になりました。

この「結カード」は「アフィリエイトカード」と呼ばれ、共通の趣味・考え方を持った人々を会員対象とし発行するカードであり、入会いただくことによりカード利用金額のうち、一定割合が合掌集落保存基金に充てられることになります。

▼寄付の流れ



お問い合わせ
資料請求

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3
(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団「結カード」係
☆お電話・FAX・インターネットでも受け付けています
TEL (05769)6-3111 FAX (05769)6-3113
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

いろいろな萩町

萩町を訪れる人はどんなところを見ているんだろう？そこに住んでいる人達はどんなところを気にしているんだろう？普段何気なく眺めている萩町の風景ですが、萩町に触れる人たちは萩町の何を見ているのか、そして、何を見たいのか。今年度の当財団調査事業の一貫として、使い捨てカメラを配って自分の好きな景色を観光客、白川村民の皆さんに撮影してもらいました。これらの撮影データと夏季と秋季に行なった歩行者流動調査の結果を基に観光客の流れの現状把握を行なうとともに今後の観光資源の発掘に役立てていこうと考えています。

調査の中で撮影数が多かった上位6つの写真は守る会30周年記念の記念誌に掲載させていただきました。ここではその他の様々な景色を可能な限り載せてみました。観光客の目から見た萩町、村民おすすめの萩町、いろんな萩町をご覧ください。

観光客が見たい萩町

田んぼとともにある合掌造り

今回の調査で再認識できたのが、「合

掌の周りに田んぼ」というイメージを皆さん必ず写真に捉えています。やはり合掌と田んぼの風景は切っても切り離せないものなんですね。

水、緑、土、石

水や緑や土といった萩町では当り前のものが都会の皆さんにはとても新鮮に映っているようで、そういったものを感じさせる写真が数多く撮影されていました。特に水路は色々な場所で撮影され、水路に泳ぐ大きなマスを撮影した人が多かったのも興味深い事実です。この水路を泳ぐマスを通して、人々は水路に流れる水がそれほど美しい水であるということを感じ取っているのだと思います。

また、土も舗装された都会に住む人々にとっては今や珍しいものとなっています。舗装されていない土のある風景を捉えている写真もたくさんありました。舗装は砂埃を抑えたり、交通の利便性から日本中に敷き詰められてきましたが、逆に土と人間を切り離してきました。今、萩町を訪れる人々はそんな日本の姿に大きな疑問をもってやってくるのではないのでしょうか？だから年間150万人もの人々が萩町を訪れて安心を感じて帰っていくのだと思います。



合掌の妻面



田に浮かぶ稲架小屋



稲の上を走る



庄川にふれる



稲にうもれる



田に浮かぶ合掌



庄川の原風景



昔使われていた、せせらぎ橋



ひまわりと合掌



昭和初期の風情



旧国道沿いの民家



水路に泳ぐマス



集落をめぐる水路



石垣と合掌



田と水路



土の上に建つ稲架小屋



白川八幡神社



ニウ



野菜



明善寺のイチイ



雪囲いの材料



ススキとアゼと稲架小屋



合掌の街角

村民が

見せたい萩町

村民の皆さんには秋の稲刈りの時期に調査に協力していただきました。ここでは、観光客の人達が目をむけていなかった景色を中心に集めてみました。いわば村民の見せたい穴場スポットです。

水路景観

様々な場所にある水路を中心とした景観を撮影している方が多く、「ここはどこ水路だろう?」と迷うほどバラエティーに富んでいました。水路は田んぼに水を運ぶ動脈としての役割を担うとともに、水路周辺の小自然やそこに流れる水、水路をかたどる石積などが今では訪れた観光客の目を楽しませる重要な要素になっています。

下ゴン・上町地区

村民の皆さんの写真では下ゴン・上町地区を撮影された方も多く、この点は観光客の方々と大きな違いができました。白川村観光のツアー化傾向による短時間観光の影響で観光客の流れはどうしても萩町の中心地に集中しがちであるという状況がこの写真調査でも顕著に表れ、観光客の皆さんが撮影した写真では下ゴン・上町地区がほとんど見られませんでした。一方村民の皆さんの7割は下ゴン・上町地区を撮影されています。撮影数では1割の写真が下ゴン・上町地区の写真でした。上町では棚田の景観が広がり、下ゴンでは迫るような山の自然があります。まだまだ観光客の知らない景色が萩町にはあるのです。



本覚寺の石垣



人の手で積まれた石垣



石積と小屋



上町の棚田風景



南側から展望した上町



上町の棚田のストライプ



下ゴン地区



小屋のみの倉庫



下ゴン地区



集落の東南



水路の周辺は
たくさんの植物が見られる



集落の東南



生活と密着した水場



そば畑



生活と密着した水場



横から見る荻町



水難除けの天龍宮



林道



昔の情を残す水路



地道の残る農風景



春には屋根の材料に

ありがとうございます

募金ご協力者一覧 (敬称略)

平成13年度

- 岐阜県 飛騨大野建設業協同組合／荒家 福廣／加藤 文男／二宮 考博／早川美和子／早川 寛雄／森 省三／野口 昭平／大澤 信孝／鈴木 貞一／株式会社セントラルファイナンス岐阜支店／株式会社三輪酒造／(株)ひだ白川郷かたりべ／民宿幸エ門
- 愛知県 中日本航空株式会社／伊藤 伸幸／堤 きみよ／陶川 菊雄／松野 良一／森 顕敏
- 神奈川県 小野 幸子／北村 秀雄／国武 路子／小島 泰司
- 東京都 馬場 菜穂子
- 千葉県 細谷 恵子
- 栃木県 片山 朗子
- 長野県 関川 直美
- 静岡県 宇津万司女 (天龍村赤十字奉仕団)／杉澤 崇
- 石原 正美
- 重慶県 小田 信雄／紺谷 圭子
- 兵庫県 高橋 久栄／西本喜久子／西本 照也
- 徳島県 小島 スミエ
- 香川県 柴田 聰
- 福岡県 野中 洋子

平成12年度追補分

- 静岡県 石原 正美

竹筒募金

- 民宿幸エ門／白川郷観光協会／民宿わだや／ます園文助／土産店おけさ／土産店山楽堂／であいの館／田中屋

左記募金ご協力者の皆様から頂きました募金は、毎年、当財団の下記事業に生かされ、荻町集落の保全に使わせて頂いております。中には毎年かかさず募金にご協力頂いている方もあり、職員一同大変感謝しております。今後ともどうか皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成13年度に財団が行った事業

1. 修理事業		
差し茅	20棟	2,733,000円
伝統的建造物修理	1棟	465,000円
棟茅葺替	78棟	4,554,000円
トタン屋根葺替	3棟	711,000円
2. 修景事業		
修景協力費助成	25棟	5,007,000円
トタン屋根葺替	8棟	3,119,000円
ビニールシート指定色奨励事業		142,200円
一般建築物棟茅葺替		114,000円
3. 守る会活動助成		
		1,000,000円
4. 調査普及事業		
観光客の受入対策の調査・検討及び実施プランの策定		2,801,232円
荻町の新住宅計画作成		2,559,900円
5. 煙草ポイ捨て防止啓発		
		2,079,000円

世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

財団では、白川村が行なってきた、白川郷合掌集落保存基金の趣旨を受け継ぎ、荻町集落に暮らす住民の生活により密着した保護施策を進めるため、集落景観に重大な影響を与えるような生活上で受ける制約に対して、その負担の一部を助成してまいります。

それらの経費を賄うには、財団のわずかな基本財産の運用益だけでは、はるかに及ばないのが現状です。

現在は、それを補う窮余の策として、岐阜県の助成を得て、白川村が、緊縮財政の中から捻出しています。今後、財団に対して要請される事業が、社会情勢の変化に伴って、ますます多様化していくものと予想されます。財団が、このような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには、基本財産をより充実し、運用できる果実をもっとも増やさなくてはなりません。どうか、財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

基金に対するご寄附お送り先

振替による場合

- 郵便振替口座 00810-6-51954
- 飛騨農業協同組合白川支店 (普) 9203800
- 十六銀行白鳥支店 (普) 261-213783
- 八幡信用金庫庄白川支店 (普) 03-034293

現金書留による場合

〒501-5627
岐阜県大野郡白川村荻町2495-3
世界遺産白川郷合掌造り集落保存基金事務局
TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113
※インターネットでも受付けています
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

編集後記

今年の駐車場の入込み数字を見ると2月28日現在で普通車60、711台、大型車13、155台と去年比で普通車1・09倍、大型車1・31倍という数字になりました。白川村の交流人口の増加はとまるところを知らません。今年の傾向で注目すべきところは冬季間の入込みの増加です。12月、2月で昨年と比較すると普通車1・16倍、大型車はなんと1・7倍です。この数字からツアー会社が冬の白川郷もツアーに組み始めていることが分かります。事務所の窓口においても去年と比べるとお客さんの数は多く感じました。

冬季に来るお客さんの質問No.1は「どこか飲食できる場所はありますか？」でした。

いままでの冬はカメラマンの姿しか見かけませんでした。最近では普段の時期と同じような客層のお客さんが大半となってきているようです。この傾向はライトアツプ効果との連鎖反応ともとれるのですが、とにかく冬も休んでいられない状況になりつつあるのは確かです。

今年の会報は今年度財団で行なった「観光客受入対策調査」の調査結果を元にその報告も兼ねて掲載いたしました。この調査は荻町に訪れる観光客の動向を把握し調査結果から今後の荻町観光の方向性を検討することを目的として行ないました。

荻町の観光が通年化しつつある今、ここで一度「観光」を見つめなおす新しい時期に来ているのではないのでしょうか。